

港湾短大横浜校の就職指導について

港湾職業能力開発短期大学校横浜校 波多江 茂 樹
山 田 守

Consideration concerning finding employment guidance of Yokohama Harbor Polytechnic College

Shigeki HATAE, Mamoru YAMADA

要約 港湾職業能力開発短期大学校横浜校（以下、港湾短大横浜校と略す）は、雇用・能力開発機構立で一番小さな短大校であり、施設、場所さらには職員の人数的なハンディがあるにも関わらず、就職率100%を実現し維持している。それには（1）教職員が一丸となった学生の募集活動を実施している、（2）就職に向けて早い時期から取り組んでいる、ということが考えられる。本報告では、（1）と（2）の具体的な内容と学生に実施した就職に関するアンケート調査結果について述べる。

I はじめに

港湾短大横浜校は、雇用・能力開発機構立で一番小さな短大校であり、専門課程の港湾流通科と物流情報科の二科のみであるという制約から敷地が狭い、施設が小さい、学生食堂がない。さらに交通の便が悪い、周りにはコンテナの集積場、倉庫などがあり決して環境が良好な場所とは言えないところに存在する。このような、施設、場所さらには職員の人数的なハンディがある。しかし、（1）短大校の管理職、教職員が一丸となった学生の募集活動を実施している、（2）就職に向けての取り組みを入学当初から実施している、このような取り組みにより、港湾短大横浜校では就職率100%を実現し維持している。本報告では、上述した（1）、（2）の具体的な取り組み、および港湾流通科と物流情報科の2年生に実施した就職アンケート調査結果について述べる。

II 学生の応募を増やすための取り組み

港湾短大横浜校は、港湾関連の目的校として設立さ

れたため、港湾業界との繋がりが強く訓練目標やカリキュラムが港湾関係の企業が望む人材を養成している。しかし、一般的に港湾関係の仕事は3K（きつい、きたない、きけん）業種であると受け止められており、応募してくる学生数は多くない。しかし、我々が自信を持って社会に送り出すことができる学生を育てるためには、我々が選抜できるだけの学生数を確保しなければならない。

学生の応募状況は、平成10年度より、応募者が激減してきている。その対策として、昨年度まで、（1）港湾短大横浜校をアピールするためのオープンキャンパスを実施し、施設案内、模擬実習（フォークリフトの体験実習、ホームページの作成実習）などを年2回行った（1昨年までは年1回の実施）。（2）神奈川県の高校を中心とした高校訪問を6月と12月に職員と教員で分担して行った。（3）入校しやすくするために2種類（特別、一般）の推薦入試を実施して来た。

例年、オープンキャンパスに参加してくれる学生は、ほぼ港湾短大横浜校を受験してくれるが、今年のオープンキャンパスに参加した学生数が例年よりも減少した。

そこで、推薦入試や一般入試を受験する学生が減少

するのでは、ないかという危機感から今年はオープンキャンパスをもう1回、12月に実施することが決まった。オープンキャンパスの内容は施設案内、模擬実習（フォークリフトの体験実習、ホームページの作成実習）、数学の過去問題の解説等である。11月下旬から12月にかけてもう1回、神奈川県や隣県の水産高校、海技学校等を重点的に訪問する。さらに、予備校や学習塾への訪問、新聞等に広報することが学務委員会で決まった。

このように、港湾短大横浜校は施設が小さく、職員間の意思の疎通が通り易いという利点を利用して、速やかな行動が取れるということの証明である。

Ⅲ 就職に向けての取り組み

1 港湾に興味を持たせる試み

港湾短大横浜校が港湾関係の目的校であることを理解して入校して来る学生の数は少数である。そこで、港湾短大横浜校では、1年次より港湾のことを分らせるために各種の見学会、講演会へ学生を参加させている。例えば、(1) 横浜港を一周する船に乗り、港の現状を見学する「港見学」、(2) 船の構造や船の種類を実物や模型を見て船のことを勉強する「船の科学館」見学、(3) 港湾職業能力開発事業の一環として行われるスピーチプラザへの参加および発表、(4) 港湾関係で使用されている荷役機械や自動化装置等を見学する2年に一度開かれる「国際物流展」の見学、(5) 横浜港湾局から派遣している海外の代表（今回は、韓国、台湾、香港、シンガポール）から、各国の港湾事情の報告会である横浜港海外代表報告会への参加、等である。

上記の施設や報告会に参加させると、必ずそれらのことについてレポートを提出させている。以下に、スピーチプラザ「私と港」で港湾流通科2年生の女子学生が発表した内容と「国際物流展」を見学した後に提出された物流情報科2年生の男子学生のレポートの要旨を示す。

港湾流通科2年生の女子学生は、第14回スピーチプラザ「私と港」で「私の目に映る港」という題目で発表した。その内容は、以下に示すものであった。(1) 横浜が人家100戸ほどで半農半漁の静かな村から東京に次ぐ大都会になったという横浜の歴史。(2) 横浜駅から港湾短大横浜校までのバスから見える景色を短大

で学んだ知識を基に、そして自分の感想も含めながら説明した。

物流情報科2年生の男子学生の「国際物流展の見学」のレポートでは、授業で学んだ物流の知識が頭で描いていたよりも大掛かりのシステムであったため驚いたこと、物流業界は日進月歩で変化しているため仕事は大変である、自分が知らない物が色々見学できたため国際物流展の見学は良かったと述べられていた。

ここで紹介した学生たちは特に成績が上位の学生ではないが、2名の学生は港湾関係の企業に内定が決まった。このように、港湾短大横浜校での港湾関連の学科・実習の授業さらには様々な行事に参加することにより、学生たちは港湾に興味を持ち出し、それにより学習意欲が高まり、最終的には港湾関係の企業への就職とつながることになる。

2 就職支援について

港湾短大横浜校では、港湾流通科、物流情報科の1年生に就職関係の学科としてキャリア形成論、職業社会論、実習として面接講座を実施している。これらの学科、実習の中で、働くことの意味、社会のルール、ビジネスマナー、面接の受け方、履歴書の書き方、エントリーシートの書き方、ビジネス文書の書き方等を教えている。上記以外にも学務課において作成した「就職ガイドブック」を学生に配布し、就職活動のながれ、求人票のながれ、会社の応募方法、就職先の決定までのながれ等を説明している。

港湾短大横浜校では、各科の2年生担任が就職担当をしている。その他に2名の港湾短大横浜校OBの嘱託教員に就職のアドバイスを受けている。

就職指導は次のようにして行われる。

(1) 学生たちに自分の進路を決定させるために、1月に進路希望調書を提出させる。(2) 提出された進路希望調書に基づいて、各科担任が各学生の希望を再確認する。(3) 就職委員会が開催され、各学生の希望企業や進学先を話し合う。ここでは、本人の希望を第一優先にするが、学生の適性・能力を話し合いながら、受験させる企業等の絞込みを行う。(4) 各学生に3月までに、就職を希望する企業に最低1社は訪問させる。あるいは、予約を入れさせる。(5) 企業訪問の後、就職試験を受験させる。あらかじめ、試験を受ける会社に就職担当から電話を受験前・受験後に入れるようにしている。(6) 就職委員会は毎月、開催され、各科の

学生の就職状況を話し合う。未就職者に対して、希望する職種を募集している企業を紹介する。

上述した就職指導を行い、本年度は10月一杯で、就職希望者は全員、企業に内定した。これは、港湾短大横浜校の細かい学生に対する就職指導の現われであると考えられる。

IV 就職アンケート調査

I から III に述べてきたように、港湾短大横浜校では、1 年次より港湾関係に興味を持たせる工夫を行い、きめ細かい指導で学生たちを就職に導いている。それらの試みを学生がどのように受け取っているかアンケート調査を行った。アンケートの調査内容を表 1 に、アンケートの調査結果を図 1 から図 14 に示す。

アンケート結果から次に示すことが言える。

- (1) 現状のままでもよいものは、求人票 (図 1)、教官のアドバイス (図 3)、面接講座の開催 (図 11)、面接講座の開催時期 (図 13) である。
- (2) 改善が必要なものは、電話の応答の仕方 (図 2)、面接の個別練習 (図 8)、学科試験の対策 (図 7、図 9)、港湾短大横浜校のOBから就職活動の経験談や現在従事している仕事について話をしてもらう就職講座 (図 13)、港見学や展示会への参加 (図 14) である。
- (3) アンケート結果を見て、意外だったのは、最近の学生たちは就職について親や友人の相談すること (図 6)、新聞を70%の者が新聞を読み世の中の動きを勉強している (図 10) ということである。
- (4) 港湾短大横浜校が1年生の入学当初から取り組んでいる、港湾に興味を持たせる試みがある程度功を奏していることが分かった (図 4、図 5)。

V おわりに

港湾短大横浜校は、施設、場所さらには職員の人数的なハンディがあるにも関わらず、就職率100%を実現し維持している。それには、(1) 教職員が一丸となった学生の募集活動を実施している、(2) 就職に向けて早い時期から取り組んでいる、以上の2つの理由が考えられ、本報告では、それらのことについて述べてきた。

教職員の (2) の取り組みに対して、学生はどの様に受け取っているのかアンケート調査を実施した。その結果、学生たちから評価されている面も多々あった。しかし、今後改善していかなければならない点もある。例えば、電話の応答練習、学科試験対策、就職講座の中身、港見学や展示会への参加である。

就職講座の中で電話の応答や面接の練習を行っているが、個別に練習しないと実感がわかないことが分かった。港湾関係の企業も従来までと異なり、学科試験を実施するところが増加しているため、学科試験対策も実施する必要がある。就職講座に関しては開催時期および内容の検討が必要である。さらに、学生たちは見学等に不満を持っていると考えられるため、新たな見学場所として卒業生等が働いている港湾関係の現場の見学も実施すべきである。

【参考文献】

1. 波多江 茂樹、港湾短大横浜校の15年の経過について、職業能力開発報文誌、VOL.16 No.2 (32)、pp.47-53、(2004)
2. 履修案内及び授業要目、港湾職業能力開発短期大学校横浜校 (各年度版)
3. 平成16年度横浜海外代表報告会要旨集、横浜市港湾局
4. 前田 繁喜、長嶋 茂、専門課程における就職指導の実践、実践教育 (機械系ジャーナル) ,Vol.19 No.2 pp.13-15、(2004.6)
5. 国際物流総合展2004ガイド、(社)日本能率協会

表1 アンケート内容

設問番号	内 容
1	求人票の内容は君らが見て分かりやすかったですか。
2	会社見学や入社試験について電話で問い合わせるのに、どうでしたか。
3	就職に対して教官のアドバイスは役に立ちましたか。
4	希望する業種はありましたか。
5	自分が希望する企業に就職できましたか。
6	就職について親、友人に相談しましたか。
7	就職試験で学科試験の問題はどうでしたか。
8	就職試験対策として面接試験の練習をしましたか。
9	就職試験で学科試験の勉強はしましたか。
10	日頃から新聞の政治・経済・社会面を読んでいますか。
11	1年生の12月に面接講座を開いていますが、役に立ちましたか。
12	1年生の12月に面接講座を開いていますが開催時期はどうですか。
13	2年生の4月に開いた就職講座はどうでしたか。
14	港湾短大横浜校では、港見学や物流展の見学を実施していますが、これは就職に役立ちましたか。

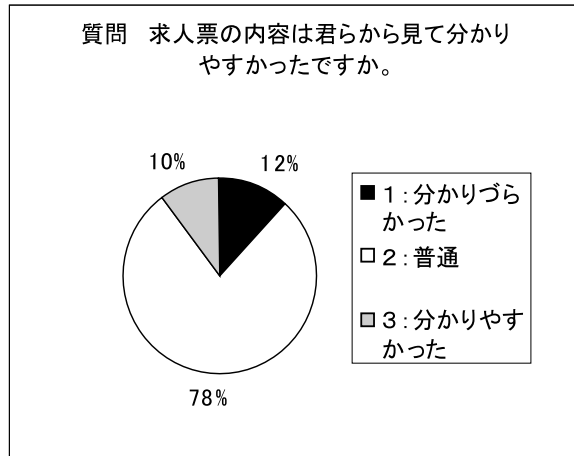


図1 質問1の回答

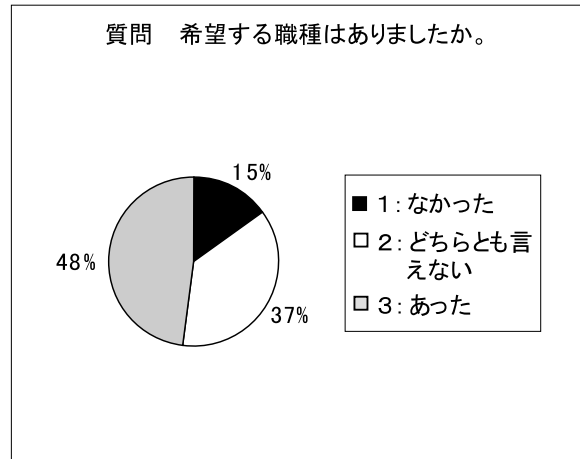


図4 質問4の回答

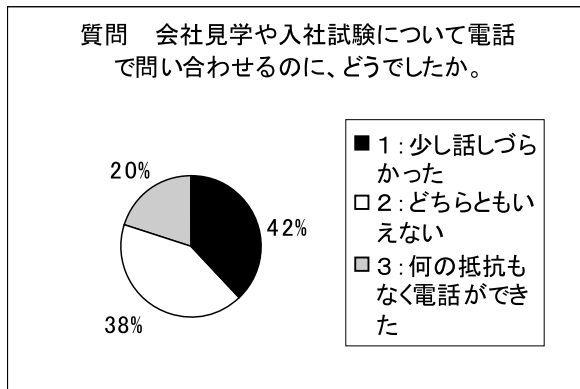


図2 質問2の回答

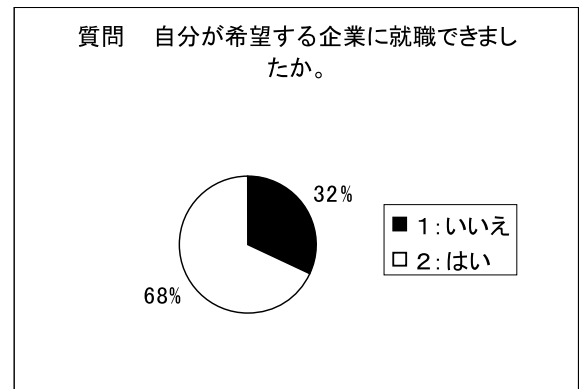


図5 質問5の回答

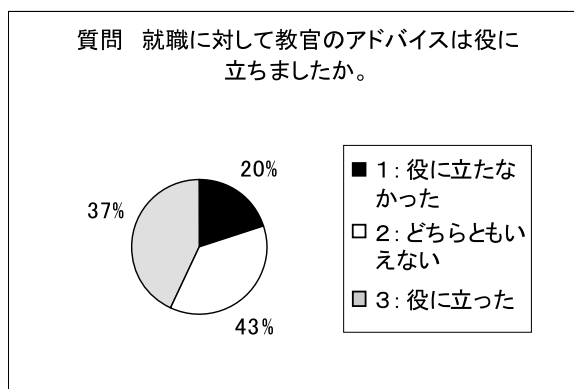


図3 質問3の回答

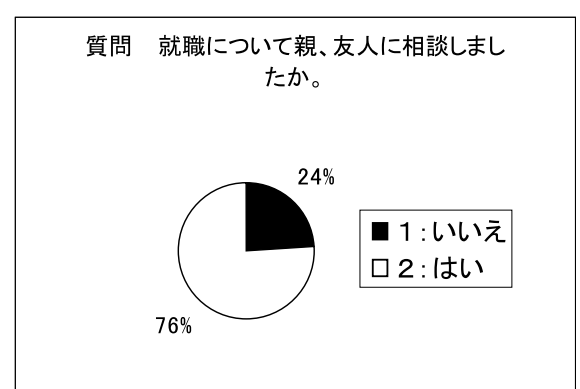


図6 質問6の回答

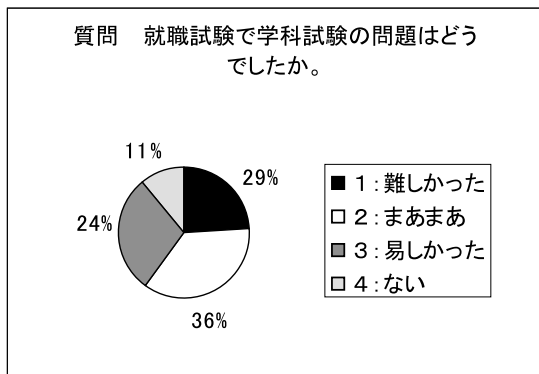


図7 質問7の回答

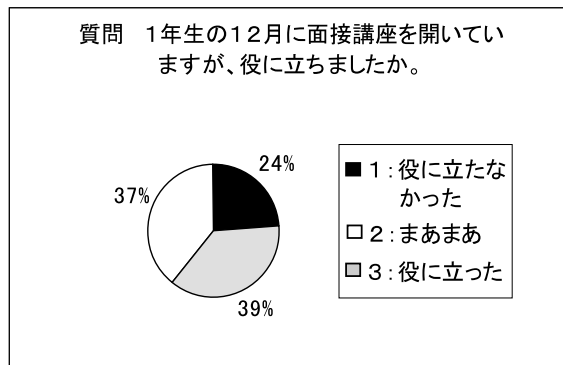


図11 質問11の回答

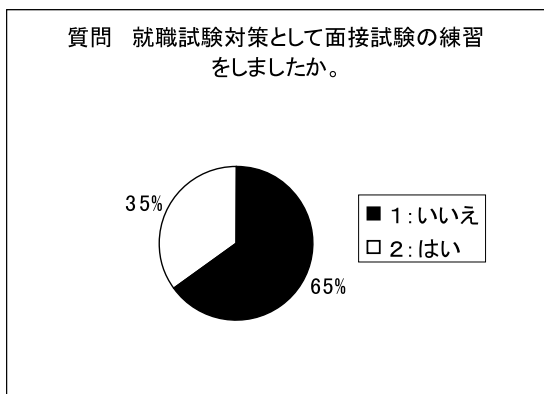


図8 質問8の回答

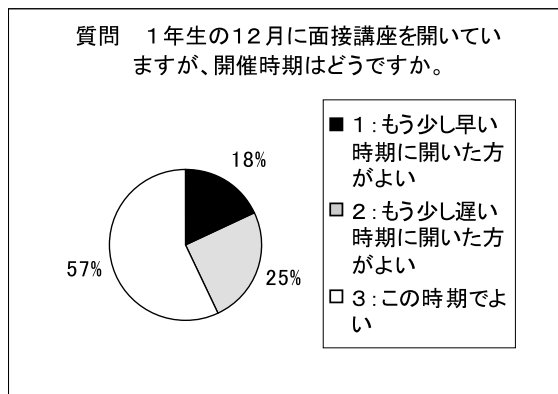


図12 質問12の回答

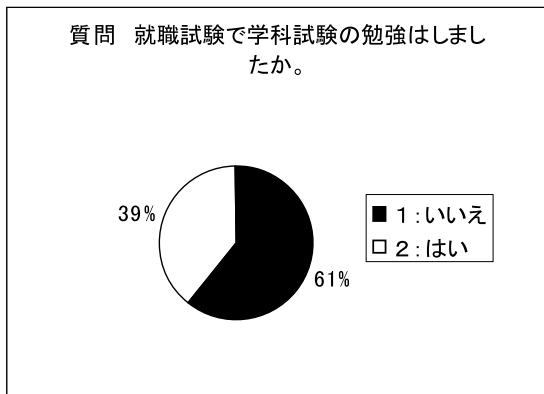


図9 質問9の回答

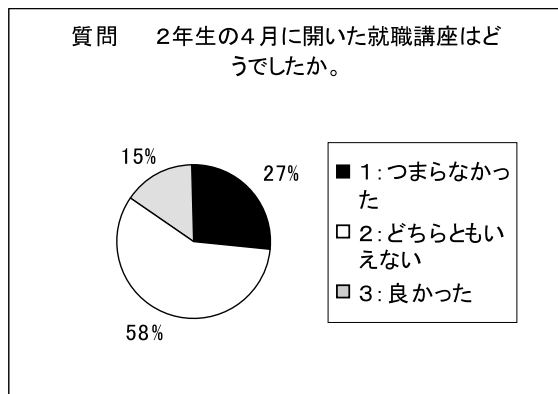


図13 質問13の回答

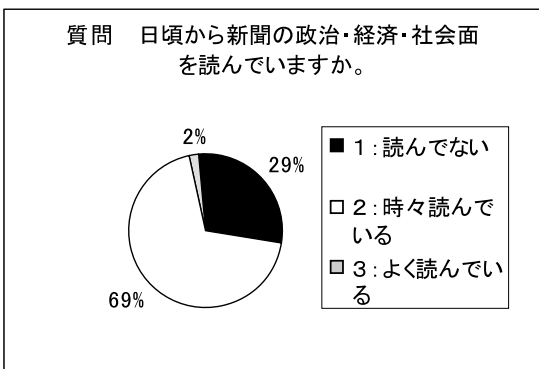


図10 質問10の回答

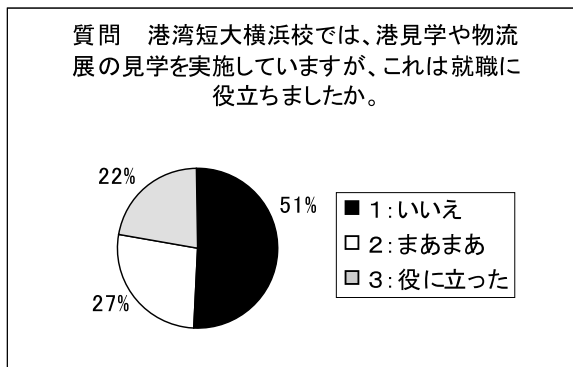


図14 質問14の回答